

平成29年度循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
酒田地区広域行政組合地域	酒田市、遊佐町、庄内町	平成23年度～平成27年度	平成23年度～平成27年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指標	現状(割合 ※1) (平成21年度)	目標(割合 ※1) (平成28年度) A	実績(割合 ※1) (平成28年度) B	実績B/目標 A ※2
排出量				
事業系 総排出量	11,850t	11,699t (-1.3%)	13,193t (+11.3%)	112.8 %
1 事業所当たりの排出量	1.4t	1.5t (+7.1%)	1.9t (+35.7%)	126.7 %
生活系 総排出量	41,778t	37,761t (-9.6%)	37,738t (-9.7%)	99.9 %
1 人当たりの排出量	272kg/人	265kg/人 (-2.6%)	265kg/人 (-2.6%)	100.0 %
合計 事業系生活系総排出量合計	53,628t	49,020t (-8.6%)	50,931t (-5.0%)	103.9 %
再生利用量				
直接資源化量	462t (0.86%)	431t (0.88%)	0t (0%)	-
総資源化量	11,088t (18.5%)	10,679t (19.4%)	8,418t (15.1%)	78.8 %
熱回収量(年間の発電力量)	12,862MWh	12,181MWh	12,800MWh	105.1 %
最終処分量	4,617t (8.6%)	4,252t (8.7%)	4,089t (8.0%)	96.2 %

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合)を記載。

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	ごみの有料化	各市町	ごみ有料化についての検討	平成23～27年度	<p>【酒田市】 平成28年度に改定したごみ処理基本計画においても、家庭ごみ有料化の検討を位置づけし、ごみ排出動向をふまえ、広域組合を構成する市町との連携しながら検討を継続した。</p> <p>【遊佐町】 ごみ排出動向をふまえ、広域組合を構成する市町との連携しながら検討を継続した。</p> <p>【庄内町】 ごみ排出動向をふまえ、広域組合を構成する市町との連携しながら検討を継続した。</p>
	12	環境教育、普及啓発	各市町、各組合	住民へのごみの分別、減量化への意識啓発	平成23～27年度	<p>【酒田市】 市民の要望により、ごみ排出にかかる出前講座を実施し、ごみ分別や排出抑制についての啓発活動を実施した。《出前講座5か年実績 件数:24件、参加人数:延べ659名》 また、市広報掲載による周知、ごみ出し情報チラシの発行(年3回)により、ごみ排出抑制や資源化についての理解、協力を求めた。</p> <p>【遊佐町】 地域の要望により、ごみ排出にかかる出前講座を実施し、ごみ分別や排出抑制についての啓発活動を実施した。《出前講座5か年実績 件数:9件、参加人数:延べ207名》 また、7月をごみ出しルール徹底指導月間とし、全世帯に情報チラシを配布した。</p> <p>【庄内町】 毎月発行の広報「Ecoライフ」コーナーにて、ごみ排出量などの情報を掲載し、住民への啓発を行った。平成26年度には、ごみの出し方及び分別方法をまとめた「環境便利帳」を改訂し、全戸配布を行った。</p> <p>【酒田地区広域行政組合】 見学に訪れる小学生に対し、ごみの分別や処理の仕組みについての説明に加え、3Rについて理解を深めてもらうことを重点に啓発を行った。その他、各種団体の視察を受入れし、ごみ減量化等の啓発活動を行った。《視察見学の5か年実績 件数:307件、見学者数:9,175名》</p>

13	集団回収の促進	各市町	集団資源回収団体への助成、資源ステーションの拡張	平成23～27年度	<p>【酒田市】 集団資源回収を実施する各団体に対し、助成金交付を継続して行い、資源回収を推進した。《年間約255団体、回収量5か年合計14,660t》</p> <p>【遊佐町】 集団資源回収を実施する各団体に対し、補助金交付を継続して行い、資源回収を推進した。《年間10団体、回収量5か年合計381t》</p> <p>【庄内町】 集団資源回収を実施する各団体に対し、奨励金交付を継続して行い、資源回収を推進した。《年間約100団体、回収量5か年合計3,552t》</p>
14	生ごみの減量化・資源化	酒田市、遊佐町	生ごみ処理機購入の助成	平成23～27年度	<p>【酒田市】 生ごみ処理機の入札に対する助成を継続実施した。《5か年助成件数合計：145件》 また、ごみ出し情報チラシにより、生ごみの水切り徹底の呼びかけを行った。</p> <p>【遊佐町】 生ごみ処理機の入札に対する助成を継続実施した。《5か年助成件数合計：61件》</p>
15		庄内町	生ごみ収集地域の拡大	平成23～27年度	<p>【庄内町】 生ごみ収集地域を、平成23年度に3集落、平成24年度に2集落を追加拡大し、堆肥化の増進を図った。</p>
16	買物袋持参運動の普及・促進	各市町	各種団体との連携によるレジ袋の削減	平成23～27年度	<p>【酒田市】 各団体と連携し、レジ袋削減を推進した。</p> <p>【遊佐町】 レジ袋有料化協定を締結している店舗と連携し、レジ袋削減を推進した。</p> <p>【庄内町】 「ノーレジ袋で環境にやさしいお店」登録制度により、レジ袋削減を推進した。(エコバックの浸透により、登録制度は平成25年度に終了した。)</p>
17	廃食用油の回収、再利用	酒田市、庄内町	廃食用油の回収	平成23～27年度	<p>【酒田市】 廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料として再利用を継続した。</p> <p>【庄内町】 廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料として再利用を継続した。</p>

処理体制の構築、変更に関するもの	21	事業系一般廃棄物の処理体制	各市町	事業系一般廃棄物の多量排出者に対する減量化指導	平成23～27年度	<p>【酒田市】 事業系一般廃棄物の排出事業者に対する啓発チラシを配布し、適正分別及び減量化に取り組んだ。</p> <p>【遊佐町】 多量排出事業者への指導・啓発を行い、ごみ減量化計画の策定を促した。</p>	
	22	粗大ごみからの資源回収	酒田地区広域行政組合	回収された粗大ごみの再資源化	平成23～27年度	<p>【酒田地区広域行政組合】 粗大ごみから回収されるスチールやアルミ等単一製品は、有価物としての再資源化を継続実施した。平成26年度には、粗大ごみからリチウムイオン電池や鉛蓄電池等をピックアップし、有価物の再資源化を推進した。</p> <p>また、環境省の小型電気電子機器家電リサイクルシステム構築社会実験事業に酒田市が参加したことに合わせて、平成24年度に粗大ごみからのピックアップ回収を実施した。</p>	
	処理施設の整備に関するもの	1	ストックヤード整備	酒田地区広域行政組合		平成23～24年度	<p>【酒田地区広域行政組合】 平成23年度からの2か年事業として、旧ごみ処理施設等の解体工事を実施し、その跡地に溶融スラグのストックヤードを整備した。平成25年2月からストックヤードの供用を開始し、溶融スラグの品質安全を図った。</p>
		31	1の計画支援	酒田地区広域行政組合	廃焼却炉ダイオキシン類調査等	平成23年度	<p>【酒田地区広域行政組合】 旧ごみ処理施設等の解体工事に向けて、旧焼却炉等のダイオキシン類調査を実施した。</p>
		32	1の計画支援	酒田地区広域行政組合	基本設計等	平成23年度	<p>【酒田地区広域行政組合】 旧ごみ処理施設等解体工事の実施計画及びストックヤード建設の実施設計を行った。</p>
	その他	41	溶融スラグの有効利用	酒田地区広域行政組合	溶融スラグの適切な管理をし、品質安全に努める。	平成25～27年度	<p>【酒田地区広域行政組合】 屋外に野積みしていた溶融スラグを平成25年2月から新設のストックヤードに屋内保管した。年間約1,300～1,400トンの溶融スラグを産出しており、県リサイクル認定制度にて利用されている舗装用アスファルト混合物及びコンクリート二次製品の製造事業者に対し、安定的に良質の溶融スラグを供給している。</p>

42	不法投棄対策	各市町	分別区分の徹底とパトロール強化	平成23～27年度	<p>【酒田市】 廃棄物減量等推進員及び不法投棄監視員による排出指導及び監視を継続実施し、不法投棄防止を図った。</p> <p>【遊佐町】 不法投棄監視人による毎月での監視活動に加え、5、10月を強化月間として、監視パトロールやのほりによる啓発を継続実施した。</p> <p>【庄内町】 町のシルバー人材センターに業務委託し、不法投棄パトロールや現状回復作業を継続実施した。</p>
43	余熱の有効利用	酒田地区広域行政組合	焼却による熱エネルギーの有効利用	平成23～27年度	<p>【酒田地区広域行政組合】 定期整備工事で廃熱ボイラーの熱回収効率向上を図った効果により、整備前に比べて発電電力量が約46万kWh(約4%)増加したことで、売電電力量も約46万kWh(約93%)増加した。</p>
44	災害時の廃棄物処理に関する事項	各市町	災害廃棄物処理計画を踏まえた体制整備	平成23～25年度	<p>【酒田市】【遊佐町】【庄内町】 各市町策定の地域防災計画において、廃棄物の処理体制について計画に明示し、必要に応じて見直しを図った。</p> <p>【酒田市】 平成24年度に、東日本大震災に伴う災害廃棄物広域処理を行うため、酒田地区広域行政組合処理施設周辺の住民説明会を開催し、住民理解のもと宮城県松島町の被災ごみの受入体制の構築を進めた。同組合処理施設にて、平成24年度に276トン(試験焼却を含む)の災害廃棄物の処理を実施した。</p>

3 目標の達成状況に関する評価

(ごみ処理)

○排出量

(事業系)目標に対する実績は112.8%で、削減目標を達成できなかった。

事業所数が計画策定時の予測より大幅に減少しているが、事業系排出量は逆に増加している。

(生活系)目標に対する実績は99.9%で、削減目標を達成した。

地域住民に対するごみ分別や減量化への啓発活動などの各種施策の成果と考えられる。

(総排出量)事業系排出量の増加により、削減目標を達成できなかった。

○再生利用量

再生利用量の目標に対する実績は78.8%で、目標を達成できなかった。

なお、直接資源化量に係る実績の取扱いについては、計画時に集団回収量に計上すべき数値を直接資源化量に計上したため、本報告により本来計上すべき数値に修正したものである。

○熱回収量

年間発電電力量は、目標の12,181MWhに対し、実績が12,800MWhであり、効率的な熱回収により発電を行った結果、目標を達成した。

○最終処分量

目標に対する実績は96.2%で、埋立ごみ量の減少や分別による資源化が図られ、目標を達成した。

(都道府県知事の所見)

排出量については、家庭系のごみ排出量は目標値を達成しており、出前講座の実施や広報誌・チラシの配布等による地域住民に対するごみ分別や減量化に向けた啓発活動など、家庭ごみを対象とした各種施策が順調に行われてきたことがうかがえる。

事業系のごみ排出量の実績は、事業所数が計画策定時より減少したにもかかわらず目標値を上回っていることから、その要因を分析し市町村ごとに実施している事業系ごみの排出抑制対策を更に強化していくことが必要と考えられる。

再生利用量については目標値を達成していないが、家庭ごみ分別の更なる周知徹底を図るための啓発活動や、助成制度の活用による集団資源回収等の取り組みをより一層推進していく必要がある。

熱回収量、最終処分量については、目標値を達成しており、各施策の実績からも発生抑制への取り組みが推進されていることが確認できる。全体として、地域計画の取組状況について概ね評価できる。引き続き、ごみ減量・リサイクルの推進に努めていただきたい。